

大田区MICE推進会議 中間報告書（平成30年度分）

大田区MICE推進会議は平成30年度、平成31年度の2か年に渡った開催を予定している。この度、平成30年度における討議内容について、下記のとおり、中間報告としてとりまとめる。

1 大田区MICE推進会議の役割

区内の施設及び会場を使用するMICEの誘致による区経済の活性化に向け、関係者（産学公民）一体によるMICE推進を図り、大田区らしいMICEの確立に向けた取組（ターゲティング等）を検討し、推進（体制）の具体化を形作る。

2 MICE推進で鑑みるべき視点・考え方

大田区がMICE推進を図り、誘致を行っていく際、どのような体制、あり方で進めていくと実行的か等、鑑みるべき視点・考え方として、主に以下があげられた。

（1）目的、目標（ターゲット）等の設定

- 取り組む目的には、経済効果、地域活力などのバランスを取る必要がある。
- 海外を狙うのか、国内を狙うのかの方向性を決める必要がある。
- 観光を付帯とするのか、中心とするのかの扱いを決める必要がある。
- 泉佐野市（大阪府）が「エアポートMICE」（観光庁採択事業）を提案している。大田区も羽田空港と絡めてMICEについて考え、ブランディングを行っていく必要がある。

（2）連携体制・推進体制のあり方

- 都内の自治体として「東京」の持っている資産やノウハウの活用が重要である。
- 大規模イベント等、MICEの全てを区で賄うことは不可能である。ただし、近隣地域と連携した取組で、大田区らしさや地域性を存分に発揮できる。
- エリアとして受け入れること、その際、いかにして事業者間が連携できるかが重要である。
- 様々な利害関係が生じる中で、意思決定者となるヘッドクォーター（司令塔）が必要である。
- MICEはコミュニケーションビジネスであるため、推進主体が重要な役割を担う。
- 委員が所属する団体・企業が、今後どの部分に、どのような協力ができるか等の議論が必要である。

（3）情報発信の手法

- 地域を巻き込んでいくための活動が非常に難しい。PRビデオ等では効果がない。
- 大規模イベント等によって、地域経済に良い影響が及ぼされているという実感がほとんどない。
- 区内事業者の協力を得るといった観点等から、整合性のある基礎情報の積み上げと開示が重要である。
- シティプロモーションにかかる会議体から知恵を拝借しながら議論を進める必要がある。

（4）その他、取り組むべき内容

- 「大田区らしさ」という言葉について、具体的な洗い出しが必要である。その上で、利用する素材とターゲットを確定すれば、その後の仕組み、売り方が検討しやすい。
- 宿泊施設、MICE対応施設、整備場見学への受入、空港の発着枠等は既にキャパシティオーバーであり、MICE誘致を仕掛けようにも仕掛けられない状態である。
- 区立施設を活用しMICEを誘致する場合、未稼働部分を埋めるのか、それとも戦略的に今の稼働枠をMICEイベントに入れ替えるのか、また、短期的に行っていくか長期的に目指していくかでやるべきことが変わる。
- 区立施設でMICEイベント等を開催しようとする際、予約が優先されるような仕組みはあるのか。

3 取組みを要するMICE施策

昨年度、大田区でとりまとめた「大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～」（平成30年3月）を軸に据え、また、MICEの種別によっては「他自治体等との連携により取組の幅を広げることが重要」とする視点などに沿い、検討を行った。その結果、大田区が取組むべきものとして、以下4つの施策、及び、その内において想定されるいくつかの事業が考えられた。

※ 本内容の趣旨又は一部については、(仮称)新大田区観光振興プラン内への記載を提言する。

施策1 地域一体となった推進体制の整備

MICEの関係者は民間企業、経済団体、大学、宿泊施設等、広範囲にわたります。主催者のニーズを汲み取りスムーズに対応していくために、誘致や開催にあたっては、地域一体となって取り組む体制の整備が非常に重要となります。関係者それぞれが大田区に取り組むMICEに関して共通の意識を持ち、緊密な連携を図れるように、推進体制の整備や人材育成などを行っていきます。

また、東京都や周辺区市等との連携によって、より多くの形態、大きな規模のMICEに対する誘致力を高めていきます。

(1) 民間企業、経済団体、大学、宿泊施設等との連携

【「大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～」/「取組の方向性」6頁】
庁内外（産学公民）問わず、MICE誘致において重要となる関係者同士が深く連携する体制を整えるとともに、MICE施策に対する共通認識、理解、認知を向上させる取組（勉強会開催等）を進めながら、区内における一体的なMICE推進の基盤を構築する。

(2) 地域における機運醸成

【「大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～」/「取組の方向性」6頁】
MICE開催の意義・効果を地域に発信等（シンポジウム開催等）することで、地域におけるMICE開催の理解を得ながら、共に推進を図っていく機運を醸成する。

(3) 人材の育成・登用

【「大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～」/「取組の方向性」6頁】
MICE誘致の実務に求められる専門性をもった人材を育成・登用する他、他の推進団体（CB、DMO等）と交流を図る等、ネットワーク・チャンネルを広げ、推進基盤の底上げを図る。

(4) 発展的な推進体制を見据えた検討

【「大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～」/「取組の方向性」6頁】
MICE受入拠点の指定を視野に入れ、区主体から民間等主体の発展的な推進体制（エリアマネジメント組織）の実現を将来に見据え、区に依存しない自主自立的運営を担保する仕組みを検討する。

(5) 周辺や関連自治体などとの連携によるMICE誘致力の強化

MICEにはさまざまな形態があり、その要求事項も多彩であることから、大田区においてすべての

タイプのMICEの引き受け、開催をめざすことは現実的でなく、また非効率でもあります。そのため、東京都をはじめ、周辺区市や友好都市・姉妹都市等との連携、交流や情報交換等によって、単独では誘致できないようなMICEの誘致にチャレンジし、実績を積み上げていくことで、さまざまなMICEに対する誘致力を高めていきます。

施策2 区内資源の有効活用

大田区では、大田区産業プラザ（P i O）や大田区総合体育館等のMICE開催場所となりうる施設を有するほか、日本および東京の玄関口である羽田空港とその周辺施設をはじめ、大田市場や民間の物流センター等、収容力と希少性を兼ね備えた見学型資源がひしめき合っています。これらの資源を最大限に活用することに加え、インフラ（道路・公園等）や体験型アクティビティ等、MICEに資する資源の活用方策を検討し、整備を行うことで、大田区らしいMICEを演出します。

（1）施設・インフラの活用

【「大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～」 / 「取組の方向性」6頁】
区立施設・インフラ（道路・公園等）、その他の区内施設等について、MICE利用が促進される方策の検討を行う。そのうえで、特にMICE推進に向き合うべき区立施設・インフラ（道路・公園等）については、予約・利用基準等の緩和含め、積極的な活用を進める。

（2）ユニークメニューの開発

【「大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～」 / 「取組の方向性」7頁】
MICE主催者等に訴求する、大田区ならではの特別感・地域特性を演出する、会議等に使用できる施設・インフラの開発を図る。

（3）アフターコンベンション・エクスカージョン等の充実

【「大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～」 / 「取組の方向性」7頁】
MICE主催者等に訴求する、会議後・会議中等に導入される、大田区ならではの魅力的なアトラクション等メニューの充実を図る。

（4）資源のパッケージ化

【「大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～」 / 「取組の方向性」7頁】
MICE主催者等に利便性・魅力がより訴求するよう、資源単体ではなく資源を連携・連結させ、一体的に活用するパッケージ展開を図る等で、大田区ならではの価値を提供していく。

施策3 MICE対応力の強化

MICE誘致に関する国際競争が激しい中、国はMICE国際競争力強化委員会やMICE推進関係府省連絡会議を設置するなど、我が国のMICE誘致競争力の抜本的な強化に取り組んでいます。このような背景の中、世界と日本を繋ぐ「選ばれる」MICE開催都市を目指す大田区では、他都市との激しい競争の中で独自のポジションを獲得するために、MICE対応力を段階的に強化していきます。

(1) 支援体制の充実・円滑化

- ・大田区が開催地としてMICE主催者等に選ばれ、そして選ばれ続けることを目標に、関係者が自らの役割に応じ、MICE主催者等のニーズに迅速かつ柔軟に対応する仕組みを構築・強化します。

【大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～】 / 「取組の方向性」 7頁

関係者が自らの役割に応じ、MICE主催者等のニーズに応え、支援する仕組み（MICE開催者向け案内窓口、支援ツール、助成制度、コーディネート人材等）を構築し、MICE主催者等が大田区を開催地を選択し、その後も選ばれ続ける（リピーターとなる）ことを後押しする環境を整える。

(2) グローバル対応の充実

- ・国内外から選ばれるMICE開催都市となるべく、関係者間の協力のもと、MICEの誘致・開催に係るグローバル対応を充実します。

【大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～】 / 「取組の方向性」 7頁

国内外から選ばれるMICE開催都市となるべく、多言語対応やICT対応、人材育成等で不足する、施設・取組のグローバル対応を段階的に進めていく。

施策4 重点分野の設定による誘致活動の展開

大田区はMICE先進都市（大規模施設を有する／機能集積型）とは異なるアプローチで、他の都市では担えない、世界と日本を繋ぐ「選ばれる」MICE開催都市を目指しています。大田区らしいMICEを具現化するために、重点的に取り組む分野を設定したうえ、資源を集中的に投入し、誘致活動の効果を高めていきます。

(1) 重点分野の設定

- ・MICE誘致に関する区内の資源を把握・再整理し、関連情報のデータベース化を行います。
- ・SWOT分析やSTP分析などのマーケティング手法を活用し、ターゲットとする重点分野を設定し、MICE誘致の推進に係る区の現状や課題を関係者間で共有します。

【大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～】 / 「取組の方向性」 7頁

区の強みの洗い出し、マーケットリサーチ、ポジショニングによる他、区の文化・特色・理念等の一定の連携や親和性を持たせるべき事項から、MICE推進の根幹（大田区らしいMICE）をより具体化し、ターゲットとする重点分野（狙い／掘り起こすマーケット）を設定する。

(2) プロモーション体制の整備

- ・大田区らしいMICEの誘致を拡大させるためのプロモーション体制を整備します。整備した体制のもと、MICE施設事業者、旅行業者や大学等のステークホルダーとの連携を強化するとともに、区が進める関連施策等との相乗効果を図ります。

【「大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～」 / 「取組の方向性」 7頁】
PRツール等の段階的な整備、誘致活動を行う場の検討、大学等のステークホルダーとの連携等、MICE誘致を拡大させるプロモーション実施に向けた取組を、(仮称)大田ブランディング・シティプロモーション施策と連携のうえ、進める。

(3) 誘致活動の展開

- ・重点分野におけるマーケットの動向を把握・分析し、区での開催が見込めるMICE案件等に関する情報収集を進めます。
- ・区の強みを活かすとともに弱みを補うための取り組みを展開し、重点分野における誘致成功を目指します。

【「大田区らしいMICEの確立に向けて ～ 当面の取組の方向性等 ～」 / 「取組の方向性」 7頁】
東京都(TCVB含む)と連携する等のうえ、地域・関係者が一丸となり、区におけるMICE開催案件の獲得に向けた誘致活動(ロビイング、トレードショー、ロードショー、ファムトリップ、トップセールス等)を行っていく。